

平成知新館

平成知新館は、2014 年 9 月に開館しました。1966 年から 2009 年まで現存していた旧平常展示館と同じ場所にあります。

再建中の遺跡の広範な考古学的調査により、近くの方広寺の南門の柱の基礎石の存在が明らかになりました。これらの柱の位置は、グランドロビーの床と新しい入り口の外側の反射するプールに同心円でマークされています。

南門は、現在の美術館の南門を直進し、三十三間堂の大南門まで続く南北軸によって二分されています。したがって、この軸は、800 年以上の歴史を持つ 3 つの門をつないでおり、南の三十三間堂と以前は北の方広寺にあった大仏殿の間の古代の巡礼の道を思い起こさせます。

設計は、ニューヨークの近代美術館、東京国立博物館の法隆寺宝物館、豊田市美術館などの著名な建築家でもある建築家の谷口義雄（1937 年生まれ）によってなされました。

受賞歴のあるデザインは、「オープン」ミュージアムのコンセプトに基づいています。これは、グランドロビーとエントランスホールの天井が柔らかな自然光を透過し、内部を包み込むことで作成される風通しの良い空間に反映されます。対照的に、展示ギャラリーと保管施設は、自然光を遮断する二重壁で芸術を保護するように設計されています。

直線が主体のデザインの直線的なテーマは、建物に洗練されたモダンな雰囲気を与えますが、軒、格子、その他の細部は、古典的な日本の建築のシンプルで整然としたラインを連想させます。

新しい機能には、免震システム、最先端の視聴覚設備を備えた講義室、超透明ガラス製ディスプレイケース、慎重に設計された革新的な LED 照明システムがあります。